

9月定例記者会見の概要

1 日 時 令和8年8月26日（水）10時00分～11時00分

2 場 所 本庁舎2階 正庁

3 出席者 <報道機関>

- ① 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ② 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
- ③ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
- ④ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）

計 4 社

< 市側 >

・市長・総務部長

（テレビ会議）

・副市長・教育長・小高区役所長・鹿島区役所長

・復興企画部長・復興企画部政策担当理事

・市民生活部長・健康福祉部長・こども未来部長

・商工観光部長・商工観光部企業立地担当理事

・農林水産部長・建設部長・総合病院事務部長

・総合病院経営企画担当部長・教育委員会事務局長

計 18 人

（司会進行）秘書課長

（会議記録）秘書課広報広聴係

【市政報告】

前回8月4日の記者会見から最近までの出来事についてご報告いたします。

はじめに、令和8年熊本地震及び令和8年8月千葉豪雨への対応についてです。

このたびの災害により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

本市では、熊本県及び千葉県の交流自治体等と連絡を取り、被害状況や支援の必要性を確認しておりますが、現時点では特定の支援等は必要ないとの連絡を受けております。これからステージが変わって様々なことが起きると思いますので、引き続き情報交換を行い、今後要請があった場合には、速やかな、できる限りの支援を行ってまいりたいと考えております。

次に、福島スペースカンファレンスについてです。

8月7日、一般社団法人宇宙産業連携機構と市は、東北最大級の宇宙ビジネスイベント「福島スペースカンファレンス2026」を開催いたしました。第4回となる今年は、昨年よりも約140人多い580人に参加をいただき、トークセッション終了後の交流会にも250人以上の方に参加いただいたと伺っております。毎年

参加いただく人数がずっと増えている状況に驚いており、大変喜んでいるところです。

各トークセッションでは、今後、南相馬市で取り組んでいきたい内容にも言及がありました。例えば、市内に拠点を有する宇宙関連スタートアップ企業などから、ロケットや衛星の開発に加え、食や教育、復興などを宇宙と掛け合わせて「宇宙といえば福島だ」と感じてもらえる取り組みにつなげたいとお話がありました。また、月面探査用ローバーの開発に取り組む学生団体が市内での創業を検討するなど、将来を担う若い人材やスタートアップ企業が市内で新たな挑戦を進めようとしている姿は頼もしく、今後の展開が楽しみです。

次に、夏のイベントについてです。

今年も市内各所で夏のイベントが開催されました。8月4日は原町区で原町商工会議所青年部主催による「北泉サマーフェスティバル2026」、8月9日は鹿島区で実行委員会主催による「かしまのなつまつり」、8月14日には小高区で小高商工会主催による「おだか夏まつり」がそれぞれ開催されました。

また、市内各地区でも夏のイベントが行われ、市で把握している一例をご紹介しますと、小高区の片草行政区及び6行政区合同の桃内地区、鹿島区の塩崎行政区、原町区の北長野、北町一丁目、深野、下太田の4行政区及び8行政区合同のひがし地区などでそれぞれ夏祭りや盆踊りなどが開催され、子ども達も多く参加しておりました。ふるさと南相馬の良さを感じることができる夏の思い出づくりの機会を設けていただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

次に、荒汐部屋への南相馬米「天のつぶ」の贈呈についてです。

本市は、本県出身の大波三兄弟、若隆元・若元春・若隆景に、「南相馬米PR大使」として南相馬産のコメをPRしていただいています。令和8年夏巡業・大相撲福島場所に合わせて、8月21日に大波三兄弟が所属する荒汐部屋へ「天のつぶ」60キロと、ちゃんこ鍋用として南相馬市産の野菜を贈呈しました。

次に、北泉海水浴場についてです。

市では、北泉海水浴場を7月18日から8月23日まで37日間開設しました。今年は雨模様が続き海水浴の機会が少ない状況ではありましたが、それでも計1万3,003人もの皆様にご利用いただきました。開設期間中は大きな事故もなく、無事に海水浴場を閉設することができました。

山・川・海が揃った南相馬の豊かな自然の魅力の中で、多くの方々に夏の思い出をつくっていただけたものと考えております。

今後も、利用される皆さまが安全・安心に楽しめる海水浴場の運営に努めてまいります。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、公共交通の実証運行についてです。

市では、地域の皆さまの日常の移動手段を確保するため、9月より原町区と鹿島区において公共交通の実証運行を開始します。原町区では市街地を循環するバスを運行し、鹿島区では買い物や通院などの日常の移動を支えるため、予約制の乗合タクシーを運行します。今回の実証運行は、現在運航している「みなタク」や「ジャンボタクシー」などの既存交通とも適切に組み合わせながら、成果や課題を検証し、将来にわたって持続可能な公共交通網を構築することを目的としています。市では、利用状況や地域の皆さまのご意見を伺いながら検討を進めてまいります。多くの皆様にご利用いただき、率直なご意見をお寄せいただきたいと思います。ちなみに私も、9月1日の第1便に乗る予定です。

次に、市議会定例会についてです。

9月2日から開会となる第4回市議会定例会に提出する案件は、議案35件、報告4件の計39件を予定しています。詳細はのちほど総務部長より説明します。

次に、市内の敬老会についてです。

9月13日に原町区の太田地区、9月26日に小高区で、それぞれ実行委員会による敬老会が開催されます。また、9月19日には鹿島区の上真野地区まちづくり委員会による敬老会が開催されます。当日は、参加される皆さまが楽しいひとときを過ごされ、地域の皆さまとの交流を深めていただければと思います。

なお、現在、市内の75歳以上の方は1万1,949人で、100歳以上の方は男性3人、女性59人の計62人、その中で最高齢は男性が103歳、女性が105歳でともに原町区の方となっています。

次に、野馬追の里健康マラソン大会・ウォーキング大会についてです。

12月6日に第39回野馬追の里健康マラソン大会・第21回ウォーキング大会を開催いたします。現在参加者を募集中で、エントリーの受け付けは9月15日までとなっています。

大会の特長として一つ目は、大会当日、参加者の中から抽選で100名様に市制施行20周年記念オリジナルTシャツを贈呈するほか、毎年好評いただいている豚汁の振る舞いも予定しています。特長の二つ目として、市内の小中高生はマラソン大会、ウォーキング大会ともに参加無料となっています。三つ目として、市では「ウォーカブルなまち」を目指しています。歩くことをはじめとした運動を推進しており、ウォーキング大会は3キロ、5キロ、10キロのコースを準備しています。健康増進のため、ウォーキングにもぜひ多くの方にご参加いただきたいと思います。

次に、海外研修報告会についてです。

今年8月に市内の中学2年生12人がオーストラリア海外研修に行ってまいりました。その報告会を9月23日に原町生涯学習センターで開催いたします。また、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ペンドルトン市への高校生6人の派遣団はすべての日程を終え8月18日に無事に帰国しました。こちらは10月17日に市民情報交流センターで報告会を開催する予定です。

いずれの説明会も、参加した学生たちが文化交流を通じて学んだ事や気付きを直接聞くことができる機会です。ぜひ会場にお越しください。

なお、次回の中学生海外研修は令和9年3月24日から28日までの3泊5日でシンガポールを訪問する予定であり、現地の企業訪問や学生との交流を予定しております。9月初旬から参加者の募集を開始します。ぜひ多くの皆さんに参加していただけることを期待しております。私としては、応募いただいた皆さん全員に行ってもらいたいと思っております。

次に、ロボテスフェスタについてです。

10月3日に福島ロボットテストフィールドにおいて、イノベ機構と市が共催でロボテスフェスタ2026を開催します。見る、触れる、最先端技術を体験できるドローン&ロボット展示会や、普段は入ることができない実証実験のエリアを見学できるバスツアーなどを予定しています。また、今年の見玉として、市内に本社を構えるZIP Infrastructureが開発している自走式ロープウェイの見学会を実施します。その他、地元のキッチンカーが出店するみなみそうまグルメストリートやファミリーステージなど盛りだくさんの内容となっています。

当日は原ノ町駅から会場を結ぶ無料バスを運行予定です。ロボットの最先端技術を体感できるこのイベントに、ぜひご家族や友人と一緒にお願いします。

続いて、市民の皆様へ大切なお知らせを申し上げます。

市では4月から市民課窓口において窓口の受付時間の変更を試行してまいりましたが、10月からはこの試行の対象を、小高区役所と鹿島区役所をはじめとする庁舎や施設に拡大します。

現在の受付時間は8時30分から17時15分までとなっていますが、それぞれ30分短くさせていただいて、行政サービスを行うほぼ全ての対象施設で、9時から16時45分までとします。なお、電話での問い合わせはこれまで通り17時15分まで受け付けます。

導入の背景としては、オンライン申請サービスあるいはマイナンバーカードでの証明書が取得できるようになった背景があります。例えばコンビニエンスストアでは200円のところ100円で証明書を取得できます。こうしたことも背景にあります。市民の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

最後に、まだ暑い日が続いておりますので、熱中症には十分ご注意ください。

残暑による疲れがたまっている場合も、熱中症になりやすくなります。天気予報や熱中症警戒アラートを確認し、こまめな水分補給や適切な休憩など、予防行動を心がけていただきたいと思います。

【質疑応答】

質問1：

9月補正の「小高スマートインターチェンジ整備事業」（予算主要事業説明書24ページ）について、今回の予算計上で用地取得が全て完了したのでしょうか。また今後の完成見通し等のスケジュールを教えてください。また、遅れた要因について

も分析があればお伺いします。

回答 1 : 市長

今回の予算成立を前提として完了する見込みです。工事予定については現在、国や県等と協議中であり、工事に順次入る見込みですが、現時点で明確な完了時期はお伝えできません。

遅れた要因については、地権者との打ち合わせや検討事項が多く時間を要したことに尽きます。通常は用地交渉のめどが立ってから事業化しますが、今回は復興事業としての制約もある中で、交渉に時間がかかったことが要因と捉えています。

質問 2 :

北泉海水浴場の今年の利用客数（1万3,003人）について、近隣自治体や例年と比べた状況、および減少の要因を教えてください。

回答 2 : 市長

いわき・相馬・新地などを調べたところ、軒並み前年比50%台から70～80%程度と減少しており、南相馬市は53.3%となりました。開設日数は昨年と同じですが、気温が25度未満の日が昨年は2日だったのに対し、今年は17日と非常に少なかったことや7月末から雨が多かったこと、水温が23度未満の日が昨年の3日から今年は20日もあったことなどが大きな要因と考えています。

質問 3 :

鹿島区で実証する乗り合いタクシーと、現在運行している「みなタク」との違い、および本格導入の時期の目安があれば教えてください。

回答 3 : 市長

「みなタク」はお電話をいただいて、営業時間内であればいつでも玄関先から目的地までお送りする、1人利用が中心のシステムで、いわばタクシーを安くご利用いただける制度です。一方、今回の実証運行は、原町区では小さいバス、鹿島区ではタクシーを活用します。一定のタイムスケジュールや運行ルートに沿って、近くの決まった乗降場所に来ていただき、乗る方式となります。

一般的に、定時運行のバスは多くの方が乗車でき、効率的で環境負荷も少ない一方、乗り合いタクシーは利便性が高い反面、効率に課題があります。地方では路線バスの維持が難しい状況ですが、交通網がなくなれば車を運転できない方の生活が成り立たなくなるため、今回は環境と市の財政的負担を軽減できる方式を試行します。

新しい仕組みでは時間を待っていただくことになり、例えば原町区では最長30分お待ちいただければ必ず来る運行を特徴としています。本格導入の判断については、まずは半年間試行し結論を出したいと考えています。市民の皆様にご利用いただけるかどうかにかかっていますので、半年間しっかりPRを行い、市民の皆様に馴染んでいただければ、継続につなげていきたいと考えております。

質問 4 :

9月補正の新規事業「小高区がんばる起業者応援事業」（予算主要事業説明書22ページ）について、これまでも小高で起業する人への支援は行われていたかと思

います。これまでの支援との違いや、今回の制度が初めてと言える理由、また財源などを教えてください。

回答４：市長

これまでは震災後の事業再開に向けた事業再開補助金として、水道代や電気代などの運営経費を補助する制度を県や市の制度で継続してきましたが、市の制度は令和７年度で終了しました。そのため、小高区の制度としては現在空白状態となっております。

今回の新制度は、区域を小高区の商業地域・準商業区域、いわゆる街中に限定し、店舗の賃借だけでなく、間借り営業や、空き地を活用した取り組み、さらにスタッフを雇用する際の人件費補助など、支援のバリエーションを増やした点が大きな特徴です。財源は、市の東日本大震災復旧・復興基金を活用します。

以上